

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。</p> <p>住み慣れた地域の中で利用者がその人らしく暮らし続けることを支えるサービスとしての理念を作り上げている。</p>		
2	<p>○理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。</p> <p>ミーティング、職員会議では理念について職員全体で話し合い、実践に向けて取り組んでいる。</p>		
3	<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる。</p> <p>ご家族には、訪問時、家族会等、折に触れ伝えている。地域の敬老会、夏祭り、運営推進委員会で、事業所の実践を伝えるようにしている。</p>		
2. 地域との支えあい			
4	<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。</p> <p>買い物、散歩の際、近隣の人たちと挨拶を交わしたり町内の方の訪問も多く近隣に住む人々と触れ合う機会が多い。</p>		
5	<p>○地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。</p> <p>管理者が町内の役員を引き受けており、町内会の人たちが立ち寄ることが多い。事業所として地域活動に参加する機会は少ない。</p>	○	歩行困難な利用者が多く、地域のお祭り、行事への参加が難しいこともあるが、町内婦人部に行事の際の参加をお願いするなど地域の人々と交流することに努めたい。
6	<p>○事業者の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。</p> <p>地域の研修にはできる限り参加するようにしている。町内会合の折には、地域の方に認知症についての啓発に努めている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。</p> <p>自己評価は全職員で取り組み、職員の意識向上、ケアの質の確保に活かしている。外部評価の結果は職員会議で報告し、改善に向けての具体策を検討している。</p>		
8	<p>○運営推進介護を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。</p> <p>会議では、事業所の取り組み、実践報告を行っている。前回の評価の結果の報告も行ってはいるが、サービス向上に活かせるような意見はなかった。</p>	○	<p>○</p> <p>次回の会議では評価結果で明らかになった課題について意見をもらえるような会議にしたい。</p>
9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。</p> <p>毎月、市の担当者とは連絡を取り合っている。研修に市の担当者を招いて事業所の実践を知ってもらい、課題解決に向けて協議している。</p>		
10	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。</p> <p>研修で制度について学ぶ機会をもっている。制度の利用までには、管理者、ケアマネが、その必要性を充分話しあううえで、制度を活用するようにしている。</p>		
11	<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見逃されることがない要注意を払い、防止に努めている。</p> <p>虐待防止の研修会に参加するほか、虐待に関しての報道があったときには、職員会議、申し送り時に職員に虐待防止法の理解、遵守を徹底している。</p>		
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p> <p>契約時には重要事項説明は丁寧に行っている。利用者の家族が不安に感じていることを引き出し、料金・重度化したときの対応、医療連携体制については詳しく説明し同意を得ている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>13 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>利用者から自由に職員に対して意見、苦情が寄せられている。苦情に対しては管理者、ケアマネで相談にのり運営に活かしている。</p>		
<p>○家族等への報告</p> <p>14 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。</p>	<p>毎月の近況報告で日頃の暮らし振りや健康状態を報告、出納帳のコピー、領収書は月1回まとめておくっている。</p>		
<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>15 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>家族会は設けているが、家族同士が話し合う機会は少ない。個別の苦情に対しては、その都度対処しているが外部者に安心して意見を表せる機会を積極的につくっているとは言えない。</p>	○	<p>行事のときにはご家族にも参加を呼びかけ、家族同士が話し合える時間をつくりたい。</p>
<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>16 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。</p>	<p>ケアマネが現場の職員の意見、要望を聞き管理者に伝えるようにしている。リーダー会議、職員会議で話し合う機会もあるが、意見が充分聞き入れられないこともある。</p>		
<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>17 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。</p>	<p>利用者のADLの低下に伴い、介護負担が重くなり、腰痛など体調不良をおこす職員がいたり、急な休みの時に応援してくれる人が確保できないなど、柔軟な体制がとれる職員配置となっていない。</p>	○	<p>管理者に現場状況を理解してもらい、余裕のあるシフトが組めるよう人員の確保をお願いしたい。</p>
<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>18 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。</p>	<p>職員異動は必要最小限に抑える努力をしている。離職の際は家族との信頼関係が離れないよう引継ぎを充分している。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p> <p>ケア研究会の研修、事業所以外で開催される研修会は、多くの職員が受講している。研修報告は毎月の職員会議で発表している。</p>		
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p> <p>地域のほかのグループホームと相互訪問の活動を通じ、交流する機会も多い。また、『グループホーム研究会』の勉強会に参加し、サービスの質の向上に向け努力をしている。</p>		
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。</p> <p>職員の疲労やストレスを把握するよう努力している。昨年の評価をうけた後、休憩時間を設け短時間でも一息つける場所を確保した。</p>	○	<p>親睦会だけではなく、職員個々の話しに耳を傾けここで働きたいと思えるような職場作りに取り組みたい。</p>
22	<p>○向上心をもって働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。</p> <p>職員個々の努力や実績を把握し、向上心をもって働く職員に対しては応援体制をとっている。</p>	○	<p>向上心を持って働いている職員に対してその努力を認め、さらに働いていきたいと思いますような職場作りを目指していきたい。</p>
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p> <p>相談があった時には必ず本人に面接し、本人の意思が確認できない場合でも出来るだけ本人の思いに向き合い、状態を把握するようにしている。</p>		
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p> <p>本人と家族との関係や、家族が抱えている不安をそのまま受け止め、事業所との信頼関係が築けるよう努力している。</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	相談時、本人や家族の思い、状況等を確認し、地域包括支援センターや他のサービス利用につながる対応をしている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	サービスの利用にあたっては、見学に来てもらうことから始め、本人、家族が納得したうえで利用してもらうようにしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	職員に対して『大変だね』とねぎらってもらうこともある。昔話の中から生活の知恵を借りたり一緒に過ごす中で助けてもらう場面も多く、支えあう関係が築けている。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	ご家族には、日々の生活の中で気付いたこと、変化などきめ細かく伝え、本人にとってどうすることがいいのか話し合い、協力して支えていくことを伝えている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	本人の思い、ご家族の思い、両者の重いが結びつくような働きかけを心がけている。疎遠になっている家族には近況報告、電話で本人の思いを伝えるようにしている。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	家族以外の関係は途切れてしまっている人がほとんどで、特に交流できるような支援はしていない。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	その日の気分や感情で利用者同士の関係にも変化があるが、注意深く見守りながら利用者同士の関係がうまくいくように、職員が調整役となって支援している。		
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	退所後も電話があったり近くに来たからと立ち寄ってくれたりすることもあり、継続的な付き合いが出来るよう心がけている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	実現が無理と思われる要望に対しても本人の思いを汲み取り、どうすることが本人にとって最良なのか話し合うようにしている。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	本人との会話やご家族の訪問時に聴き取り把握に努めている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	一人々の生活のリズムを把握し、体調の変化を見逃さないようにしている。今まで出来ていたことが出来なくなった利用者にも、引き出せる能力はないか感じ取り、その人全体の把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している。	ケアマネと職員で定期的カンファレンスを行うほか、状態に変化があった時にもその都度カンファレンスを開き、利用者本位の介護計画を作成しているが、本人、家族を交えた話し合いにはなっていない。	○	カンファレンスには家族にも参加を呼びかけ、家族の意見も取り入れたケアプランを作成していきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	状態が落ち着いている場合、6ヶ月毎にモニタリングし、新たなケアプランを作成している。利用者の状態に変化があったときは、その都度カンファレンスを開き、対応について話し合いケアしていくが、新たな計画はその都度作成できていない。	○	新たな要望や変化が見られない場合でも月に1回のカンファレンスを開き、実情に即した介護計画の見直しを行いたい。
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	毎日の介護記録と介護支援経過を個別に記録し、情報を共有しながらモニタリング、ケアプランの見返りに活かしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	医療連携体制を活かして、重度化した場合も出来るだけホームでの生活が続けられるようにしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	運営推進委員会では、民生委員もメンバーとして参加してもらい、地域で暮らし続けられるよう意見交換している。地域の警察にも、万が一のときの協力をお願いしている。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	本人の希望、体調に合わせて訪問マッサージや訪問理容美容サービスを利用している。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	地域包括支援センターとは研修会やケアマネ交流会で情報交換しており、必要に応じて協働している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
43	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	<p>かかりつけ医には定期的に往診に来てもらっている。本人、家族との信頼関係も厚く困ったときはいつでも相談にのってもらえるような関係を結んでいる。</p>		
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。</p>	<p>入所前から専門医にかかっている人もいるが、かかりつけ医には日頃の様子、変化などを伝え専門医の受診が必要か相談し、必要な場合には紹介状を書いてもらい家族も一緒に受診し説明を受けるようにしている。</p>		
45	<p>○看護職との協働</p> <p>事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。</p>	<p>看護職員を配置しており、常に利用者の健康管理や状態変化に応じた支援を行えるようにしている。</p>		
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。</p>	<p>利用者が入院となったときには、必要な検査治療が終えた段階で家族も交え話し合い、出来るだけ早く退院できるよう医療機関と協働している。</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。</p>	<p>契約時に、重度化した場合における対応の指針を定め、事業所の対応を説明している。</p>		
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。</p>	<p>本人や家族の意向を踏まえ、利用者が安心して終末期を過ごせるよう取り組んでいる。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
49 ○住替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。	過去にあったケースでは、十分な話し合いがもてないまま一方的退去となってしまうことに反省している。	○	本人の意思を尊重しながらも、住み替えのダメージを最小限に食い止めるよう充分話し合っていきたい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50 ○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。	排泄、着替えは他の人の目に触れぬよう心がけている。個人記録は利用者や外部の人間の目につかないよう細心の注意を払っている。	○	止むを得ずトイレで着替える場合には、必ずカーテンを閉める。
51 ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや記号を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。	ゆっくりはっきり目線を合わせて話し、本人が何を希望しているのか、どうしたいか聞き出している。余裕がないときは職員が本人の思いを決めつけたり時間をかけた働きかけができないこともある。		
52 ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	一日の日課に沿って決まったペースで生活している。夕食が終わるとすぐ寝るといふ人が多いが、それもその人の希望する暮らしであり思いのまま任せている。		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53 ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	女性の入居者に対して、化粧ボランティアの訪問があり全員きれいに化粧してもらい喜ばれた。身だしなみに無頓着な人もいるが、他者に不快感を感じさせないように乱れを直したり、整えたりしている。		
54 ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。	毎月の給食会議で、検食簿をみながら職員が意見を交わし、利用者の嗜好に合わせている。野菜の下処理、茶碗拭きなど出来ることは声かけし、一緒にしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
55 ○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	飲み物は、お茶、コーヒー、牛乳などその人が飲みたいものを提供している。夏祭りなど大きな行事の時には、好きな人にはビールを飲んでもらっている。		
56 ○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	排泄パターンはチェックシートで把握、時間でトイレ誘導し、オムツの使用をできるだけ減らしている。尿意のわからない利用者にもトイレで排泄できるよう時間や行動を観察し、失敗を少なくするようにしている。		
57 ○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	一番風呂にこだわる利用者には、その人の希望に合わせて気持ちよく入浴してもらっている。身体状況によって湯船に入れない利用者にもシャワー浴で充分満足感をもってもらえるよう支援している。		
58 ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	一人々の体調や生活リズムに合わせて、午後の昼寝を促したり、就寝時間も一人々の生活習慣に合わせて安心して眠れるよう支援している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59 ○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	毎日の生活の中で、手伝える場面には必ず声掛けしている。利用者からも『何か手伝うことないかい?』と言ってくれることもある。		
60 ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	希望があるときは一緒に買い物に出かけ、自分の財布から支払ってもらえるようにしている。		
61 ○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	天気のよい日には散歩に行ったり、季節を感じてもらえるよう花見、紅葉見物に出かける。車椅子利用者は外出を億劫がるが、気候が良いときには、できるだけ散歩に出かけるようにしている。		グループホーム シャイニング (フラワー 自己評価表)

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	春の山菜採り、イチゴ狩り、秋のプラム採り、大根堀りなど季節毎に収穫を楽しんでいる。		
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	家族から電話があったときは、プライバシーに配慮して会話が他の利用者聞こえないようにしている。 文字が書けない人には、本人の思いを代筆して家族に手紙を出している。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	ご家族、知人が来訪されたときには、笑顔で挨拶し、居室でゆっくり過ごしてもらっている。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	職員全体が、『どんな場合にも身体拘束しない』という姿勢で身体拘束0(ゼロ)のケアに取り組んでいる。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	玄関前は見通しがよく、遠くへ行く気配が感じられるときには、早めに声掛けし一緒にいていくなど安全面に配慮している。		
67	○利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	記録する机を見守りしやすい位置にし、いつでも利用者の様子を観察できるようにしている。居室で過ごす利用者にも時間毎に声かけし、様子を確認している。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	包丁は利用者が手の届かない場所に保管している。薬は、保管場所を利用者の目に入らない場所に移動させたり、常に危険要因はないか話し合っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
69 ○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	ヒヤリハットに関する報告記録をもとに、原因、予防策を検討し再発防止に取り組んでいる。		
70 ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	緊急時の対応については、マニュアルを整備し周知の徹底を図っている。救急救命講習をうけた職員もいるが、定期的に訓練は行っていない。	○	少なくとも年1回の救急救命法等の学習会を実施していきたい。
71 ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	マニュアルを作成し、年2回利用者とともに、避難訓練を行っている。運営推進委員会の中で、火災が起きたときには町内の方にも協力をお願いしている。		
72 ○リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている。	多少リスクはあっても、役割活動の中で持てる力を発揮することが、本人にとっては喜びであることを家族にも理解していただけるよう説明している。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73 ○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	毎日のバイタルチェック、排便の有無を確認し、便秘による不快感や不穏な行動を見逃さないようにしている。体調や表情の変化を見逃さないようにし、職員間で情報を共有し、対応が遅れないようにしている。		
74 ○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	薬のセットはダブルチェックで誤りがないようにしている。服用するときは、飲み込むまで見守り、きちんと服用できているか確認している。薬の処方の変更になったときは、受診記録に記載し、誤りのないよう引き継いでいる。		
75 ○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。	水分補給が不十分な利用者には、出来るだけ水分を摂取してもらうよう甘い飲み物にするなど工夫している。車椅子利用者は運動不足になりがちで、下剤に頼ってしまうことが多い。		グループホーム シャイニング（フラワー 自己評価表）

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れやにおいが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	口腔ケアの重要性は、全職員が理解している。一人々の力に応じて、声かけや介助を行い口腔内の清潔保持に努めている。		
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	体重増加に注意し、栄養バランスを考えた上で、全体のカロリーを抑えるよう工夫している。水分制限のある利用者には水分管理を徹底している。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	インフルエンザの予防接種は、利用者、職員とも受けている。感染予防マニュアルを整備し全職員に周知徹底している。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	調理を担当する職員以外は、できるだけ厨房に入らないようにしている。計画的に買出しを行い、無駄なく安全な食材を使用するようにしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	玄関前にはベンチやプランターを置いて季節の花を楽しんだり、子育て支援の親子が遊べるスペースもあり、子供たちと利用者が触れ合えるようにしている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	天窓から強い陽射しが差し込む時期には、こまめにテーブルの位置を移動させ、気持ちよく過ごせるよう配慮している。季節の花をテーブルに飾ったり、利用者と一緒に草餅を作るなど、季節感を取り入れるようにしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	TVは観たい人に合わせて位置を決め、数人が好きな時代劇を観ながら和やかに過ごしている。一人になりたい人は離れた場所にソファを置き、自分の時間を過ごしてもらっている。		
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	利用者には、出来るだけ自宅で使い慣れたものを持って来てもらうようにしている。生活スタイルに合わせ、布団で寝起きする人もいるが、床暖の熱が直接伝わらないよう断熱ボードを敷いて快適な睡眠が得られるよう工夫している。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	台所やトイレは早めに換気して、臭いがこもらないようにしている。暖房が入る季節には、特に居室の温度調節に気を配っている。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	居室内でつまづくことがないよう、敷物の段差を無くしたり利用者の身体状況の変化に合わせ、転倒の原因となるところはないかチェックしている。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	食器の柄を食べ物と認識してしまう利用者には、無地の食器に変えることで混乱を防いでいる。		
87	○建物の外回りや空間の活用 建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	春の花植えや、秋のチューリップの球根を植える時には、利用者も一緒に作業したり、畑での野菜づくり、水やりは利用者が中心になっておこなっている。天気の良い日には、玄関先のベンチやあずま家で思い思いの時間を過ごしてもらっている。		

V. サービスの成果に関する項目				
項目		取り組みの成果		
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんど掴んでいない	①	
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない	③	
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない	①	
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない	③	
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない	③	
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない	①	
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない	①	
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができていく	①ほぼ全ての家族 ②家族の2/3くらい ③家族の1/3くらい ④ほとんどできていない	①	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない	③	

V. サービスの成果に関する項目				
項目		取り組みの成果		
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くない		②
98	職員は、生き生きと働いている	①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない		②
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない		①
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどいない		①

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

2年前から利用者の顔ぶれが変わらず、理念にもある、ひとつの家族のようにお互いに支えあう関係が築けている。
高齢化に伴い、身体状況も徐々に低下していく中、重度化したときにも希望に添って出来るだけ最後までホームの生活を続けていけるよう支援している。